

西郷隆盛代話

弘賣堂壽梓



山崎年信画



篠田久治郎編輯



初号



A 442
1

西郷隆盛一代話初号

東京

篠田仙果編

天下沿革の隆よハその名を四海に轟くす英傑
 仲葦よりあらざるハ和漢小例さくをくらん近
 くハ豊后秀より公尾別を知之農よそごち後日
 本ノ全権を握りて茲に復古の切石とよむれ正
 三位冬後兼陸軍大將の高友よりハ中方向をあやま
 て緘の真名をとりし初ハ隆盛の傳をきくよ又
 ハ回廊兒しまの藩主清津家よ仕へて痛いと為
 き武士ありしが隆盛俗稱を古く用とり
 幼雅

西郷隆盛一代話初号

48-7846



新納氏
卓量
名威
名威
名威

西郷吉之助



西郷吉之助

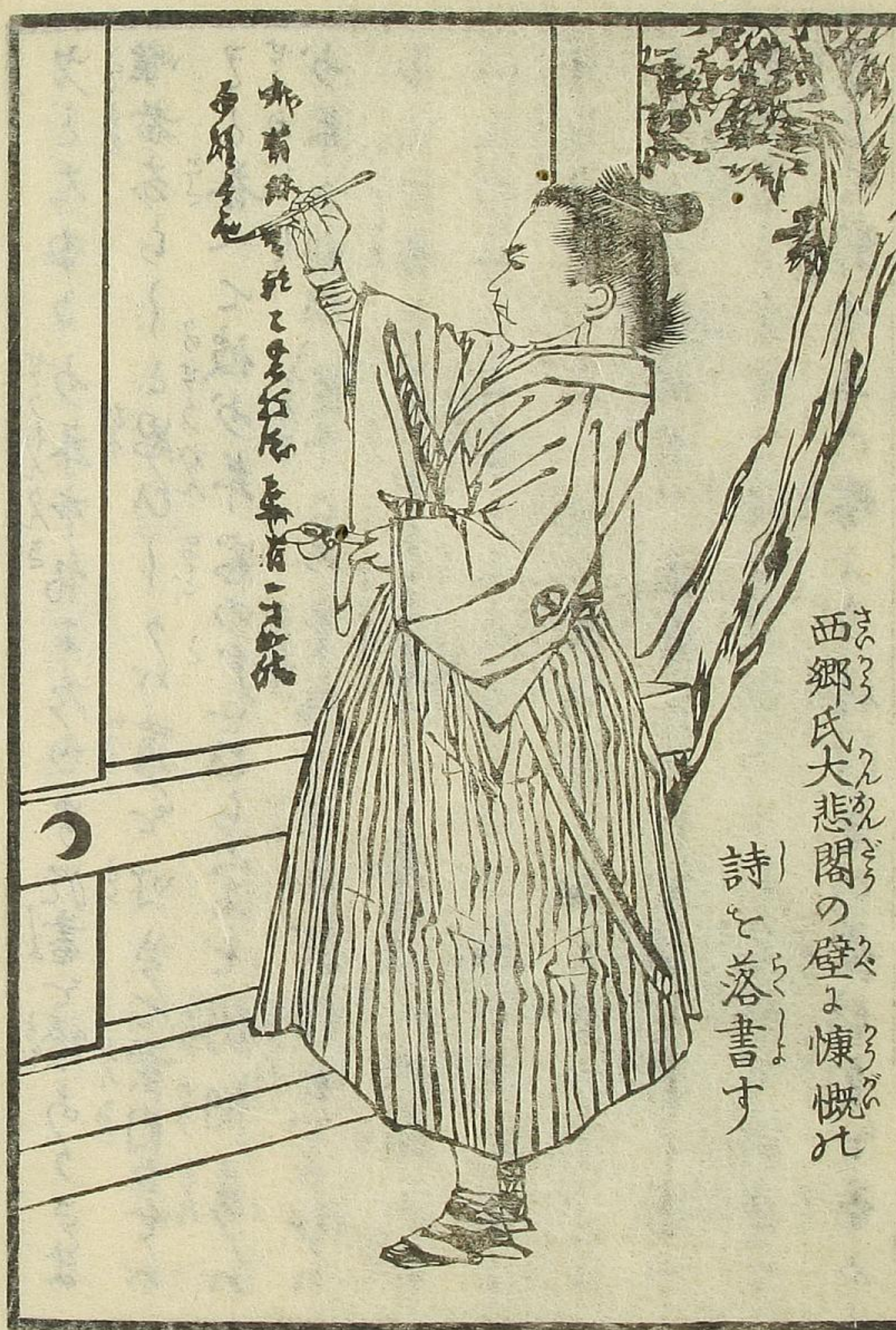
千代
一
下
節
の
古
人
千
代
危

五經

完

ころよりいざ新あら凡らんより強つらき事ことを苦くと名なに於おける年としよ
うやく五六さ才さいあて登のぼり武ぶ術じゆつの腕うでがとめをしるよ
ハい文ぶん学がく不ふ勉べん強じやうハい才さい量りやうすく卓たく絶てつたれば一ひととまて
十と七しち悟ごられされば家い貧ひんしきればハい不ふ但たんせぬるもの
みお多たきも吉きちくち脚あしハい憂うれひとせばすく諸しよ藝ぎを
といげみける備びすく同どう藩はん中ちゆうハい武ぶのしやう南なんをせ
新あら網もう素そといひんある時とき家い中ちゆうのしん海かい不ふ武ぶ士し小せう海かいとつうり
一ひとがい侯こう多たるら小せう家いのうちあて四し書しよのそ素そ績じゆくとあす
者ものありその声こゑ冷れい然ぜんとしてい金かねのしん玲れいとあ精せいをあすが如ごと
一ひと新あら内ない氏し且かつといふめ窓まどのす邊へよりうかがハい六む八はち九く

才さいといはれゆる少せう年ねんをいふた由よしに書と積ありさま
唯ただ者ものあらはしとい思おもひしうが意いをひききて素内ないをあすが
そと答こたへて彼かれ少せう年ねん窓まどのしららあそ新あら網もう素そ
少せう年ねん不ふ向かうハい足あ下したこのききれぬあらむきに經をあてしむら
あんのあをぞトりのいふ少年ねんうちあらむらハい本ほんのありしるら
ひんのあみと自じ若じやくとして答へしり新網もう氏し大だいひふ
驚おどろきそのあをと同どうバい西せい白はく吉きちと名のありします
よりして新網もう氏しハい意い量りやうのあをと海かいくち吉きち
脚あしのあをと金かね海かいを備すはひそうふ兄あに焼やて諸藝ぎを
学まなむせ十じゆ年ねんのあ春はるよりし精せい海かい素そのあ材ざいをあめ



西郷氏大悲閣の壁に慷慨此詩を落書す

西郷氏
五月廿七

一、小卒者も小松グハ学藝のよく上達し別号
を南海とよみ後あゝ新納氏も吉の賜あらず
あど小至れり借吉之賜年十六才の節つら
思ひけり大丈夫たりべき者りの迄斯く有べき
ぞ廣く天下の英雄と云ふるり志ざしをまべし
隠密役を喜と一四、西、西あるとき、糸太坂を
麻止、危難にあたり救あれどふんをて愛するを
め、小、新、水、古、奉、六、月、三、日、北、ア、メ、リ、カ、の、使、節、ヘ、ル、リ、軍
艦、四、艘、を、ひ、き、相、列、浦、愛、ふ、き、こ、り、貿、易、の、こ、も、通
信、す、小、回、徳、川、政、府、の、友、吏、畧、必、人、が、暴、威、お、お、れ

まゝハ賄賂不眠くらみ天竺の許可も受けぬ私
しよ盟約とあり交易する隙をひらき皇威を
落し奉つるもぞ元は偽て諸国の有志者も率
王政後古なるさんと知度ふ力をつらすよ西の元よ
り勅王家ゆえ回出列の藤吉田松法回信家の藤
原を決するのと福島の藤平此を居てとどめと
同盟の人々と政府と倒さるべき斗畧をめぐらしけ
る清浄家の重役人この身をばつて若徳川家
小偏ゆせむりありある出来せん由計られざる
争懼て西の吉くぬと日向のふあり大流しり

西々の一年修り大流し清流のく小船はあり
て流を脱れを諸所を潜り巡りあり時西京
よのりり流系ある清水寺の親世音よ奉流しと
るりよ大内の方と極め何思ひけん矢立より草
とり出しく傍なる親善堂の白髪よ
我有絲髮幾々黒於漆
白於雪 我髮終可斷
我心不可截
居しこの寺の住職成就院の月照ゆて静や
りよ声をうけいりよまあるは客人流葉一握ま

西の吉くぬと日向のふあり大流しり

江

せんすづけ方へとりふるをなすれまゝ清水寺
 の別当所にて暫らく雑務ありたりが月照と
 云う僧も勅王無二の人あれば互ひふ意中をあ
 り合兄弟の約をむきび月照の實弟なる信海
 法西も序人招き徳川政府をありぞけべき服従
 んと確き時の来ころをお待ちり茲より別當
 の棟主井伊氏の政府の大老職となりその権威
 あらふ者なく心の信ふ政事を行ふをれは信更
 の時とゆくりと下の勞れを願ふに我利欲との
 と確れば農工者の政府を懐むよつて後事



近き
 あれが
 櫛の宿
 仙果

西の氏月照と
 と兄弟の約を

田代言部

出来せんといふある人々の眉を皺めて松語一が
らの江田水戸の後主世昭公の賢明のまへつゝ
又安らもふ兼佐より思頼廷をうやまいられ水
戸公をりつて徳川家の参輔よりまづと禁闕
あてに評議あり近傍殿らのうゝと水戸を知ら
せき日さんと日に敏へ伺公あす清水寺の丹照
へ一封の書と渡し子細を命せられし程ふ月思
よりらびまわり西々々係頼をれの吉の御兼謀
一遠くと水戸を下り然るは徳川家の役人ら之
と笑出しまて金かきと種くさまさげをばし

よりり多勢の弓矢が吉く脚の江戸は病りて同
盟の士海江田決をゆつて近傍殿の以書を月
照又返させり却説大老井伊氏の外心と号
致しいさゝり然るは水戸をもちめ尾法城前
とうの藩主を謹慎まことの隠居させ自幕の権ま
ひをありけれハ水戸家の浪士十八人搦田市門
抑よをひて井伊氏の首とあげ決ふ老中安斎氏
茶車のをりめお忘れ同トく我意を握ひしや
どふ強家の回長五六名取下市門と討んとすり
是より友吏の人を殺ぐひ目くみ政子を改を

西の若カ号

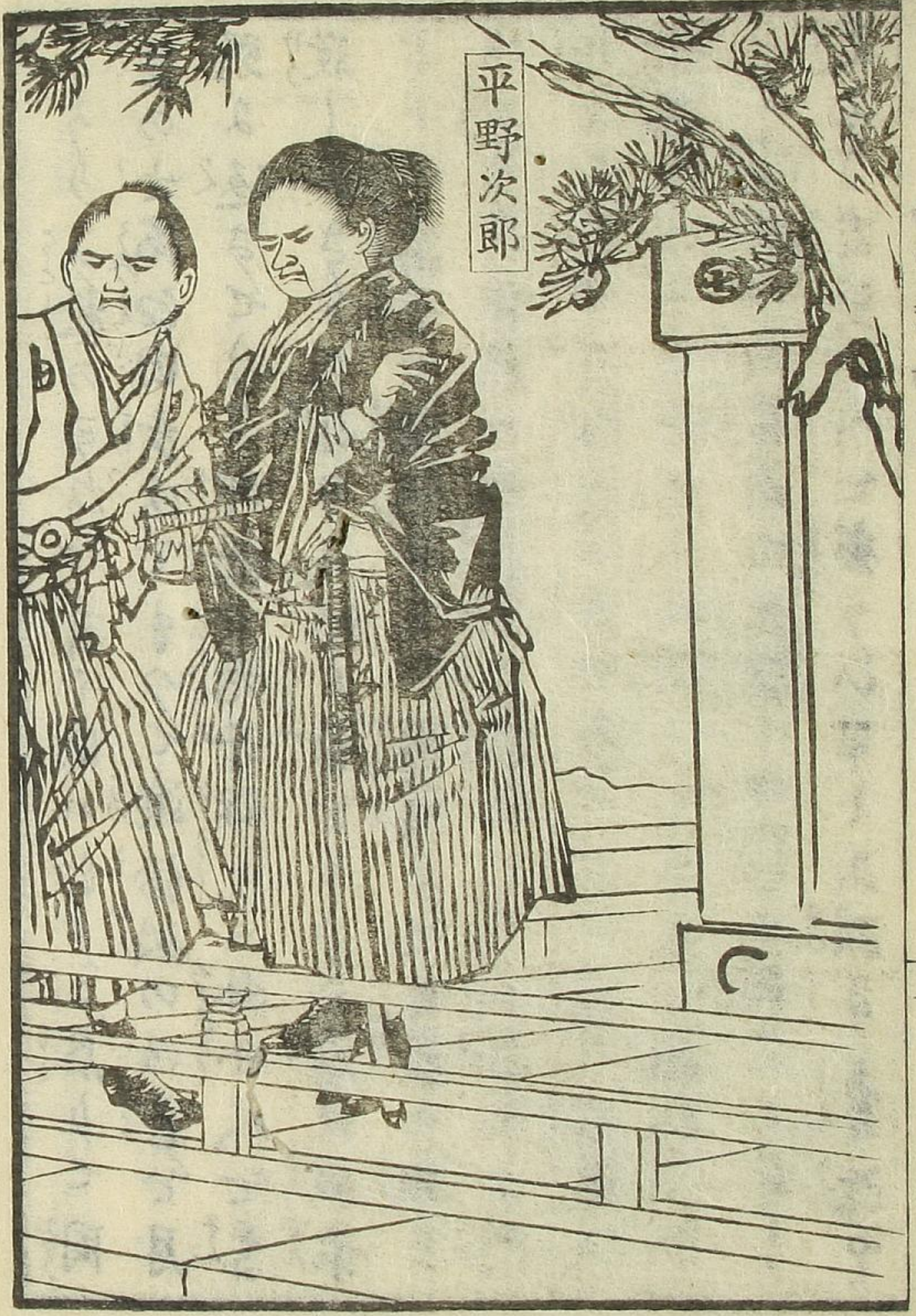


西之吉之助

らくとりあしきま
 洛東音羽山
 西之吉之助
 智勇を

あらすすの
 第二号
 記載す

五ノ巻ノ下



平野次郎

西ノ吉之助

七

徳川政府の移り変わるべき兆をうらみ、
 期を迎ふに謀んぬものと西の月照。平定の人を
 密々小集會す。早ら由中なるに、
 とらしめ、東都新目代、
 召捕べしと内命を下せり。が、
 数名清水寺小居りとの由ゆへ、
 一人も逃さず捕縛
 せよと四方ふ力同、
 人音羽山より、
 重なるるを取、
 西郷隆盛一代話初号畢

梅届明治十年十二月五日

編輯人

出版人

篠田久治郎



第五大區三小區

下谷徒町二百一丁目

上村清左衛門



第五大區五小區

浅草並木町寺番地

筆工 本所亀澤町壹丁目 早川幸次

佛国大匠ニル氏傳來

晴光水

一瓶 六錢

本家 東京伊勢町三龜内藤久八製
取次所 篠田仙果

鹿兒嶋大激戰記

初編戸部三編

幼童咄面良紙 初号より
半五枚

面良紙の進物中、
面白き双葉あり

